

平成30年度 学校評価総括表 伊丹市立伊丹高等学校

教育目標		人格の完成を目指して知・徳・体の調和を図り、平和的な国家及び社会の形成者として資質の向上に努め、心身ともに健全で個性豊かな人間を育成する。 ①自立の精神を養い、正しい判断力と実践力の育成を図る。②豊かな情操の育成と基本的な生活習慣の確立を図る。③学習意欲を向上させ、生徒個々に応じた学力を伸長する。					
重点目標		「可能性への挑戦」伸びる力をより伸ばす教育の実践 ～伊丹から世界へ・グローバル人材育成プロジェクトの充実と展開をめざして～ (1)グローバル人材の育成に向けた多様な取組の充実と推進 (2)地域を理解し、交流を通して地域に貢献できる人材の育成 (3)主体的で深い学びの上に立つ、自己教育力の育成 (4)自己実現を目指し、より良く生きるためのキャリア教育の推進 (5)他者と協働するための、公共心と倫理観の育成 (6)小学校、中学校、特別支援学校等との学校間連携の強化					
※ 自己評価のABCDについては、教員評価のaを5点、bを4点、cを2点、dを1点とし、5点満点で平均、A:4.0以上 B:3.0～4.0 C:2.0～3.0 D:1.0～2.0と表示している ※ 生徒アンケートについては別紙参照							
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	H29 自己評価	H30 自己評価	成果と課題・改善策	学校関係者評価
学力の向上	生徒一人ひとりの個性や能力に応じた教育の推進	・主体的・対話的で深い学びの研究・実践をする。 ・少人数授業や習熟度別授業など効果的な指導を研究・実践する。 ・授業改善に取り組む。	・「先生は教え方に工夫をしていますか」(生徒アンケート評価A・B)を70%以上にする。 ・「授業に満足していますか」(生徒アンケート評価A・B)を60%以上にする。	B 3.7 教員評価 a:7.8% b:74.5% c:17.6% d:0%	A 4.0 教員評価 a:19.6% b:68.6% c:11.8% d:0%	・障害がある生徒、発達障害や障害があってもわかりにくい生徒(難聴・色覚異常等)、支援が必要な生徒に対し、個々の教育的ニーズに応じた指導、合理的配慮を行い、全ての生徒が学びやすい環境づくりや学校のユニバーサルデザイン化を図ってきたい。 ・生徒アンケート1(授業のわかりやすさ)の評価C(やや当てはまらない)が24%だが、生徒アンケート2・3(授業の速さ・教え方の工夫)の評価Cは17%なので、今後、工夫の内容を吟味していけば授業の評価も、もっと上がると考える。 ・時間割作成等において制約条件はあるが、可能な限り習熟度別やチームティーチングの展開に応じていきたい。	生徒のアンケート項目5で評価Dが前年度より増えていることが気になる。
	新たな社会への対応力を育む教育の推進	・各学年との連携を密にし、情報交換に努め、要望に応じた適切な情報提供に努める。 ・生徒のキャリア意識の向上を図る。 ・生徒向けの進路講演会・進路ガイダンス等を通して生徒に適切な情報提供を行う。 ・教育課程検討委員会等で新学習指導要領の研究を進める。	・各学年2回以上の進路講演会・進路ガイダンスを行う。 ・各担任はクラス生徒に対して各学期1回以上の進路面談、進路部は希望する生徒に対する進路面談を実施する。 ・職員及び当該学年生徒へ大学入試改革説明会を年間複数回行う。 ・新学習指導要領導入にむけたロードマップを作成する。	B 3.4 教員評価 a:17.6% b:43.1% c:37.3% d:2%	B 3.9 教員評価 a:19.6% b:66.7% c:13.7% d:0%	・各学年2回以上の進路講演会・進路ガイダンスを行い、生徒の進路意識の向上、進路選択に役立てることができた。今後は、実施時期を各学年によって検討し、より効果的なものにする必要がある。 ・7月・12月に個別進路検討会を実施し、進路指導に関して、情報共有を行った。昨年度の課題である実施時期に関しては、改善することができた。会の進め方等が今後の課題である。 ・2020年の大学入試改革を見据えた進路研修を複数回実施することができた。今後は、他部署と協力しながら学校全体として行う必要がある。 ・新学習指導要領2022年導入にむけた大まかなロードマップを作成することが出来た。今後は研究を進め、本格的に始動することが課題である。	
	進路目標の確定と学習習慣の定着	・「朝学習」時に小テストを実施し、基礎学力の定着を図るとともに、家庭学習の習慣をつけさせる。 ・各種検定(英検、商業科検定等)の受験を強く奨励する。 ・学年通信の発行により的確かつ迅速な情報発信を行う。	・生徒アンケート4「小テストや学習会、補習は効果的に実施されていると思いますか」の割合を合計80%にする。 ・生徒アンケート6「家庭での学習時間は平日に60分以上確保していますか」の割合を70%にする。 ・学年通信1回発行。	B 3.6 教員評価 a:13.7% b:58.8% c:27.5% d:0%	A 4.1 教員評価 a:25.5% b:66.7% c:7.8% d:0%	・トワイライト講座について、進路指導との関連、位置づけ等は、年度毎に確認し、共通理解する必要がある。開講内容、日時、場所の情報共有も必要(短縮中の開講や予定変更も)。 ・生徒アンケート7がAB合計で80%以上ではあったが、Aの割合が多くなるようにする必要がある。今後は、教員向けミニ進路研修等を実施する必要がある。 ・生徒アンケート7について、AB合計84%であった。三者面談を含む個人面談を計画的に実施し、適宜個別に面談を実施するなど、きめ細かな進路指導を行った。担任を中心に学年団を含めた多くの教員の協力により面接等の進路指導を充実させることができ、成果をあげることができた。	小テストは勉強への動機付けになる。
	豊かな心を育む教育	・「朝学習」時に小テストを実施し、基礎学力の定着を図るとともに、家庭学習の習慣をつけさせる。(1学年) ・進路目標を決め、その実現に向け粘り強く取り組ませる(第一志望への進路実現を目指す)(3学年)	・「朝学習」時に小テストを実施し、基礎学力の定着を図るとともに、家庭学習の習慣をつけさせる。 ・各種検定(英検、商業科検定等)の受験を強く奨励する。 ・学年通信の発行により的確かつ迅速な情報発信を行う。	B 3.8 教員評価 a:23.5% b:54.9% c:21.6% d:0%	B 3.5 教員評価 a:16% b:52% c:32% d:0%	・朝の小テストは教科担当の指導だけでは限界がある。クラス担任の協力を得ながらクラス全体が取り組む雰囲気を作りたい。 ・小テストや補習についての生徒アンケート結果は評価B以上が80%を超えているので、今後も継続して取り組んでいきたい。 ・進路アンケート8に関して、AB合計86%(前年度比104)であった。大学見学会やオープンキャンパスの参加を通して進路決定に向けて具体的にイメージさせ、目標とさせることを図った。実現に向けては日々の学習と結びつけて取り組めるように個人面談等で係わっていく必要がある。	家庭学習の時間への評価が他よりも低い。生徒の勉強に対する内的動機付けを高めるために、授業の工夫等必要ではないか。
豊かな心・健やかな体	6	・担任を除く全職員を登校指導に割り当てる。 ・遅刻、服装、挨拶指導を強化する。 ・自転車マナー講習会を年度当初に行う。 ・挨拶・言葉遣いなどの基本的な生活習慣を確立する。	・登下校時の自転車事故を0に・風紀面注意される生徒3%以下 ・自ら挨拶ができる生徒を40%以上挨拶をされればしっかりと返す生徒を100%にする ・生徒アンケート10「キッチンと挨拶できていますか」の割合を80%にする ・生徒アンケートで「朝や授業において、遅刻はしていませんか」の割合をAB合計90%以上にする。 ・生徒アンケートで「服装・頭髪等の学校生活でのルールは守っていますか」の割合をAB合計90%以上にする。	B 3.4 教員評価 a:9.4% b:58.5% c:30.2% d:1.9%	B 3.8 教員評価 a:23.5% b:56.9% c:19.6% d:0%	・登下校時の安全指導、安全対策に加え、校内の授業、部活において、生徒が安全に生活できるよう(ケガや熱中症など)職員がより高く意識を持って指導する必要がある。 ・自転車事故を減少させるために、ルールを把握させ、状況判断ができるように指導し続ける必要がある。 ・挨拶は成果が出てきているが、登校時や下校時など決められた場面では率先して行っている。休み時間や学校生活の中で自然とできるように、挨拶の大切さを理解させ、教師が率先して行い、挨拶がある当たり前の環境を築いていく。	継続して自転車の安全指導を行うことが必要である。信号の変わり目など要注意。
	7	・スマホ・携帯電話マナー講演会を全学年で実施 ・いじめ実態把握アンケート年3回実施 ・社会性を育み、他人の気持ちになって考え行動できる人物に育てる。(1学年) ・個々の生徒に応じた指導の工夫をする。(2学年) ・最上級生としての自覚を持ち、下級生の手本となる学校生活を送らせる。(3学年)(時を守り、場を清め、礼を尽くす)	・いじめ実態把握アンケート、教育相談などからいじめが発見されれば早急に情報共有し対応 ・生徒の微妙な変化に気付くために挨拶を増やし生徒とコミュニケーションを積極的に図る ・生徒アンケートで「相談や悩み事について話しやすいように配慮されていると思いますか」の割合をAB合計80%以上にする。 ・生徒アンケート13「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてもらっていますか」の割合を80%以上にする。	A 4.0 教員評価 a:15.1% b:79.2% c:3.8% d:1.9%	B 3.9 教員評価 a:19.2% b:65.4% c:15.4% d:0%	・スマホ利用について、ゲームは生活のリズムを乱し、SNSは生徒間の関係を乱している。生活習慣やスマホの活用について、改善を促す指導を強化する必要がある。 ・トラブルについては、多くの場合がスマホが関係している。いじめ実態把握調査アンケートや教育相談を通して解決につながっているが、それが全てではない。生徒の変化に敏感に気付く事が必要。そのため、日頃から生徒の様子に目を配らせ、積極的に声かけを行い、相談しやすい環境、関係を気付いていくよう努める。また保健部やカウンセラー他の教員と情報を共有する。 ・生徒アンケート12について、AB合計90%であった。学年団の取り組みにより8時20分(1,2学年)8時25分(3学年)に登校させ朝SHRを実施した。 ・生徒アンケート11について、AB合計98%であった。前年度より、Aのみで見ると80%で前年度より5ポイントアップした。引き続き、生徒自らが、理性をもって自分をしっかり自律できるよう自分をしっかり見つめ考えさせていく。	特別支援学校との「ふれあい交流会」では、障がいへの理解を深めたり、福祉関係の職を目指すことにつながったりする良い取組である。
	8	・心の健康面に問題を持った生徒を早期発見し、関係分掌と連携し対策に努める。 ・スクールカウンセラーによる教育相談を一層充実したものにする。	・日常的に生徒の健康管理に努め、問題生徒のケアに努める。 ・保健部会において生徒状況の十分な情報交換に努める。 ・スクールカウンセラー・学年・担任・養護教諭と連携した協力体制を築き、職員全体での対応を図る。	B 3.9 教員評価 a:18.9% b:67.9% c:11.3% d:1.9%	A 4.1 教員評価 a:25.5% b:64.7% c:9.8% d:0%	・生徒の健康管理や支援に必要な生徒のケアに努めた。 ・保健部において、生徒の状態など情報交換に努めた。特に心の問題については、早期発見に努め、教育相談を勧めるなど解決策を探った。 ・支援の必要がある生徒に対し、職員全体の協力体制をより密に連携していきたい。保健室利用頻度の高い生徒について、担任(学年)、養護教諭の指導方針をよくすり合わせて、より連携を図る必要がある。 ・スクールソーシャルワーカーとも連携の強化を図る。 ・生徒、保護者への指導や対応に関する研修(事例研究等)を設けるとよい。	
9	・基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	・8時20分から「朝学習」を実施する。	・生徒アンケート「朝や授業において、遅刻はしていませんか。(余裕を持った行動ができていますか)」の割合をAB合計90%以上にする。	B 3.6 教員評価 a:19.6% b:51% c:27.5% d:2%	A 4.1 教員評価 a:25% b:65.4% c:9.6% d:0%	・学年登校時間を設定、校門指導を行うことにより、本遅刻は少ない。しかし、同じ生徒が、学年登校時間に遅れる事が、家庭と協力して取り組む必要がある。 ・遅刻指導は、時には生徒の実態に合った柔軟な対応がなされるよう配慮も必要。 ・一部の生徒に怠惰による遅刻が見られる。クラス・学年の課題として、家庭との連携を取りながら指導を継続する。 ・朝学習に遅刻する生徒はほとんど見られないが、朝学習を行う小テストの結果があまり良くない。朝学習に対する意義は多くの生徒が感じているが、行動が伴っていないのが今後の課題である。	

		10 ・服装・頭髪の乱れをなくし、規範意識を高める。	・生徒アンケートで「服装・頭髪等の学校生活でのルールは守られていますか。」の割合をAB合計90%以上にする。	A 4.1 a:37.3% b:51% c:11.8% d:0%	A 4.4 a:43.1% b:52.9% c:3.9% d:0%	・校門指導を実施している事により、成果は出てきている。同じ生徒の違反がみられ、家庭と連携して指導する必要がある。また、一人の教員が抱え込むのではなく、多くの教員が指導にあたるよう努める。	
	生徒の健やかな体づくりの推進	11 ・自分自身の生活習慣や心身の状態に気づき、健康的な生活習慣の大切さを知り、健康問題を自ら解決していく態度を育てる。	・生徒保健委員会の自主的な活動を援助し、生徒の健康に関する興味・関心を高める。 ・保健委員の指導や保健だよりを発行し、健康に関する意識の啓発に努める。 ・流行性の病気予防への対応を図る	A 4.1 a:25.5% b:66.7% c:7.8% d:0%	A 4.3 a:36.5% b:59.6% c:3.8% d:0%	・学校行事、保健行事では、保健委員会が活発に活動を行った。 ・「保健だより」「保健委員会だより」の発行、掲示板の活用などで健康に関する意識向上に努めた。 ・病気予防のための環境整備として、温度湿度計、消毒液の設置や換気の呼びかけなども行った。 ・年3回の保健講演会を行い健全な生活について意識を向けることができた。(性教育1年・DV防止2年・薬物乱用防止1,2年) ・スクールカウンセラーによる「レジリエンス講座」(6月)「リラクゼーション講座」(12月)を生徒向けに行った。 ・ケガや熱中症に関する事故防止、予防に、職員が今まで以上に率先して取り組む必要がある。	
	人権教育の推進	12 ・人権教育を通して現代社会の様々な問題を考察し、人権意識を磨くことを趣旨とする。それによって自己の人権はもとより、他者の人権も慮ることの出来る人間形成を目指す。	・担当者が使いやすい教案の作成 ・効果的な視聴覚教材の導入 ・専門家によるわかりやすい講演の依頼	B 3.7 a:7.7% b:76.9% c:11.5% d:3.8%	B 3.9 a:25.5% b:56.9% c:17.6% d:0%	・部落問題の現状に関する職員研修を実施することができた。 ・グローバル社会に、より対応したLGBTQ・ジェンダーの授業案を作成した。 ・LGBTQの当事者による人権教育講演会を実施した。	
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	13 ・HP、刊行物、学校説明会などを活用し、学校の情報を保護者や地域に発信する。	・担当者が使いやすい教案の作成 ・効果的な視聴覚教材の導入 ・専門家によるわかりやすい講演の依頼	B 3.8 a:14% b:68% c:18% d:0%	B 3.8 a:12% b:74% c:14% d:0%	・HPの更新についてスピード化を進めたい。更なる内容の充実、視覚向上を図りたい。 ・学校説明会の目的および回数については概ね達成できた。アンケート満足度についても更に向上させたい。 ・広報活動において各方面から協力を得られることが出来た。	吹奏楽部の演奏会等もっと広報すれば良い。早めにチラシがあれば自治会でも協力したい。
	探究活動の充実	14 ・事業の精選と活性化を図る。探究活動等の取組について検討する。	・学年と連携をとり探究活動の活性化を図る。 ・トビタテ!留学JAPAN等の国際理解教育の活性化を図る。	A 4.1 a:28.8% b:61.5% c:9.6% d:0%	A 4.2 a:29.4% b:64.7% c:5.9% d:0%	・探究活動について試行錯誤している部分が多く、系統だった指導法の確立が急務である。 ・トビタテ留学Japanの希望者を増やすことが出来た。	
特色ある学校づくり	GCコースの活性化	15 高い英語力の育成だけでなく柔軟性やチャレンジ精神を伸ばし、難関大学への進学率を向上させる。	・国公立大学をはじめ、大学見学会を進路指導部と連携して実施する。 ・English Camp・English Seminarを通して、オープンマインドを目指す。 ・英語検定取得に向けてALTを活用しながら面接指導などの取り組みを強化する	B 3.5 a:11.4% b:61.4% c:25% d:2.3%	B 3.5 a:10.2% b:61.2% c:28.6% d:0%	・ALTによるライティングの添削やExtensive Readingなど特色ある授業の成果として、71回生GCコースの英検取得率 80%を実現できた。今後の大学入試における英語外部試験の導入にむけてGCコースで蓄積したノウハウを普通科の生徒の指導に活用していきたい。 ・準2級を受験しない生徒も多く、達成目標として相応しくない。 ・準1級合格者は3名だが、受験者数が二桁を超しており、チャレンジする姿勢が見える。 ・English Camp、English Seminarともに生徒の様子に合わせて柔軟にプログラムを高度化させている。	
		16 さらなる特色化に向けて継続的な検討を行う。	・Global Studyにおいて他分野の講師を招き、講演回数を増やす。 ・京都語学実習・GCジョイント・English Camp・English Seminarを実施する。 ・他校国際科との情報交換を通して行事の実施方法・特色化を探る。	B 3.9 a:15.6% b:71.1% c:13.3% d:0%	B 3.9 a:18.4% b:67.3% c:14.3% d:0%	・国際的な舞台上で活躍される外務省員やNPO代表者、アメリカの大学教授を招いてGCコース生にむけた講演を実施できた。 ・GC独自の行事を段階的なつながりをもちながら実施することができ、生徒の満足度100%を実現できた。 ・他校の研究授業にも参加し、より効果的な国際理解(英語)教育について学ぶことができたが、共有、実践へとつなげることができなかった。	
	商業科の活性化	17 ・主体的・対話的で深い学びによるキャリア教育の充実を図り、正しい職業観・勤労観を身に付けさせる。 ・検定試験合格に向けて組織的に取り組む	・商店経営実習やオープンハイスクールなどの各種行事を生徒が企画し、運営する。 ・英語、情報処理、簿記などの検定試験対策講座を行う。	A 4.1 a:29.2% b:60.4% c:10.4% d:0%	A 4.0 a:18% b:74% c:8% d:0%	・「俳句カフェ」は二日間の開催予定だったが台風の影響により二日目が中止となった。それにより売れ残った商品についてはオープンハイスクールでの販売を行い、完売することができた。今後も引き続き生徒主体の行事を行ってきたい。 ・全商英検1級において昨年度よりも合格者を増やすことができた。その他の検定試験についても放課後等に補習を行った。今後も引き続き行い、生徒が補習に参加しやすい環境作りを行いたい。	

平成30年度の自己評価のグラフ

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標どおりに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った

